

8712 東京も南の郊外であるこの一帯が・・・

東京も南の郊外であるこの一帯が開けたのは、三十数年前の、大震災以後である。

見わたす限り大根畠がつづいていた時代には、所々に農家が点在するだけで、冬には、関東特有のからっ風が、起伏の多い野づらを吹きまくった。

やがて、そこに私鉄が通るようになった。はじめは、目黒と蒲田との間を結ぶ電車が通り、その頃は、まだ勤め人など、この辺りにはとても住めなかった。

戸板 康二『才女の喪服』

[許容訳例]

This area, situated on the Southern outskirts of Tokyo, was developed after the Great Earthquake, about thirty years ago.

At the time, when Japanese radish fields stretched as far as one could see, only a few farmhouses were dotted here and there, and in winter the strong, dry winds peculiar to the Kanto district blew over the hilly surface of the landscape.

Before long, a private railroad was built there. The first trains ran between Meguro and Kamata, but in those days office workers could not have lived in the area.

[翻訳例]

Lying on the southern outskirts of Tokyo, the area was first developed thirty-odd years ago, after the Great Earthquakes.

In the days when the fields of Giant radish stretched as far as the eyes could see, there was nothing but a few scattered farmhouses, and in winter the strong, dry winds peculiar to the Kanto district swept freely over the undulating landscape.

In time, a private railroad began running there. At first, the trains linked Meguro and Kamata, but in those days this was still not the kind of area where office workers could live.

■東京も南の郊外であるこの一帯が開けたのは、三十数年前の、大震災以後である。

(8712)★「東京も」は「東京といつても」を端折ったのですが、「東京の」として of Tokyo でいいでしょう。

★「南の郊外」は on the Southern outskirts (of Tokyo)です。outskirt は常に複数で用います。また前置詞は、時たま in も見かけますが、on が普通です。

★「である」は「にある」で lie か be situated でしょう。

★「この一帯」は、そのまま訳すと this area ですが、文全体の書きっぷりからすると、すでにここは話題になったと考えられます。したがって、the area とすべきです。

●「連体修飾節+特定体言」(東京も南の郊外であるこの一帯)

「東京も南の郊外であるこの一帯」は「連体修飾節(東京も南の郊外である)+特定体言

(この一帯)」ですから、英語では「特定名詞(the area,) + 関係詞節((which was) situated on the southern outskirts of Tokyo)」か、分詞構文(Situated [Lying] on the southern outskirts of Tokyo, the area...)です。

★ 「～が開けた」は、develop には自動詞もありますが、普通は was developed です。つまり、「開拓された」ということです。他に was opened up という言い方もありますが、これは、たとえば、「人の住んだこともないような未開の地を開拓する」という場合に使います。これに対して大都会の郊外のような場合は develop です。なお、ここでは、何となく was first developed…としたいです。

★ 「三十数年前の」は about thirty years ago とか、あるいは thirty(-)odd years ago という言い方が使えます。ただ、odd はいつでも使えるわけではなく、たとえば、「十数年前」という場合は ten-odd ~という使い方はしないで a dozen or so とか around [about] a dozen ~を使います。これは習慣ですから仕方ありません。

★ 「大震災以後」は after the Great Earthquake です。

■ 見わたす限り大根畠がつづいていた時代には、所々に農家が点在するだけで、冬には、関東特有のからっ風が、起伏の多い野づらを吹きまくった。(8712)

★ 「見わたす限り」は as far as one could see ですが、one の代わりに the eye (視力・視覚) でもいいです。『英和イディオム完全対訳辞典』(マケーレブ・岩垣) には The desert stretched away as far as the eye could see. (見渡すかぎり砂漠が広がっていた) という例が出ています。

★ 「大根畠」は Japanese (white) radish fields でも the fields of Japanese (white) radish もいいです。なお、「大根」は giant radish とも daikon とも言われます。

★ 「～がつづいていた」は stretched (away; out) がいいです。

★ 「・・・時代には」という場合は in the says when... という表現が一番合うと思います。at the time とすると「当時は」という感じです。

● 「連体修飾節+体言」(見わたす限り大根畠がつづいていた時代には)

「見わたす限り大根畠がつづいていた時代には」は「連体修飾節(見わたす限り大根畠がつづいていた) + 時の名詞(時代には)」です。日本語では他の連体修飾節と同じですが、「時・場所・様態」などの場合には、英語では「関係副詞」を使うことになります。ここでは「時代には」ですから in the days when... です。ただし、「見わたす限り大根畠がつづいていた時代には」を「当時、見わたす限り大根畠がつづいていて」と言い換えると at the time, when... と処理することが出来ます。

★ 「所々に」は here and there です。

★ 「農家」は farmhouses です。farms だけでもいいです。なお、farmer's houses とは言いません。

★ 「点在する」は dot とか scatter です。

◆ only の使い方

「だけ」はちょっと難しい。ここは独立文にすると「所々に農家が点在するだけであった」であり、Only a few farmhouses were scattered [dotted] here and there.で文法的には問題なさそうですが、普通 only を直接名詞に付ける場合は「たくさんある中で～だけが」という使い方が一番多いと思います。たとえば、アメリカの詩人 Joyce Kilmer の有名な詩"Trees"の最終行は Only God can make a tree.（神だけが木を作ることが出来る）となっています。このように直接 only を付けるのではなく、ここは There were only a few farmhouses scattered [dotted] here and there.という構文にするか、さらには There was nothing but a few farmhouses scattered [dotted] here and there.がいいです。また、There was nothing but a few scattered farmhouses.とすると here and there はなくても充分その意味が入ります。

● [で] (状態順次)

「所々に農家が点在するだけ [で], ・・・」は「状態順次」ですから and です。

★「冬には」は in winter です。

★「関東特有のからつ風」は the strong, dry winds peculiar to the Kanto district です。wind は複数で使う方が具体的になっていいと思います。

★「起伏の多い」は hilly とか undulating（波状起伏のある）でしょう

★「(起伏の多い) 野づら」は the hilly surface でも間違いではありませんが、何となく物足りない感じですから、landscape とか countryside とかを使いたいです。the hilly surface of the landscape [countryside] とか the undulating landscape とかです。

★「～を吹きまくった」は「野づら」ですから blew hard on ~にしたくなりますが、blow on というと「上から吹きつける」ということになります。つまり、The book fell on the table. の on と同じになります。ここは blew over ~がいいです。また「吹きまくる」は blow hard でもいいですし、sweep freely でもいいです。

■やがて、そこに私鉄が通るようになった。(8712)

★「やがて」は eventually を一番よく使うと思います。before long でもいいのですが、厳密に言うと、これは、「(すでに何か時点が決まっていて) そのうちに」という感じになります。eventually の代わりにだいたい同じ意味の in time を使ってもいいです。in due time も辞書にはでていますが、「その時になると何か当然起こるべくして起こった」という感じになりますから、ここでは使えません。

★「私鉄」は、前にも出てきましたが、日本独特の言い方で、辞書には private railroad [railway] とか privately-owned railway とか nongovernmental railroad など出ています。いずれにしても日本の事情を知らない人にはどういうことかわからないと思いますが、ここでは private railroad [railway] を使うことにします。

★「通るようになった」は was built でも意味はわかりますが、ここは began running とした方がいいです。また、began operating にしても別に固い感じにはなりません。なお、build の代わりに lay を使うと、具体的にレールそのものを敷設したという感じですから、ここでは無理です。また、begin の代わりに start を使うと何となく具体的で、線路そのものが開

通したという意味に近いように感じます。ただ、子の違いは気にするほどのことではないと思
います。

■はじめは、目黒と蒲田との間を結ぶ電車が通り、その頃は、まだ勤め人など、この辺りに
はとても住めなかった。(8712)

★「はじめは」は at first です。

★「(はじめは) 目黒と蒲田との間を結ぶ電車が通った」は(At first,) the trains linked Meguro
and Kamata.ですが、「はじめは」を加えて The first trains ran between Meguro and Kamata.
あるいは The first railroad [trains] to run linked Meguro and Kamata.としてもいいです。

★「その頃は」は in those days です。

★「まだ」は still でしょう。

★「勤め人など」は office workers でいいでしょう。

★「この辺りには」は around there では狭い感じです。in the area がいいです。あるいは
「勤め人など住めるところ（ではなかった）」（連体修飾節+体言）と言い換えると(It was
still not) the kind of place where office workers could live（名詞+関係副詞節）とすることも
出来ます。

● [連用形] で「逆接」に処理せざると得ない例

「はじめは、目黒と蒲田との間を結ぶ電車が通り、その頃は、まだ勤め人など、この辺り
にはとても住めなかった」の「通り」ですが、褒められた書き方ではありませんが、「はじめは、・・・」と書き出すと、その文末は「～が通り」とせざるを得ません。要するに「電
車が通り、（電車が通ったので、通勤が容易になったのだが、）その頃は、・・・」のように
文脈を補って「逆接」になるのです。